

# りそな 経済フラッシュ

## (ECB <欧州中央銀行> 理事会)

◎注意事項をよくお読み下さい



### ○市場予想通り金利据え置き、今後も「データ次第」強調

#### 要旨

- ECBは7月18日の理事会で、政策金利の据え置きを決定した。
- 依然としてサービス物価の高止まりが継続しており、緩和傾向にあった賃金の先行指標も最新のデータでは一転伸びが加速した。
- 追加利下げは多くても年内にあと2回、より賃金のデータが確認できるタイミングである9月と12月にその可否を判断すると考える。

➢ 7月18日に開催されたECB理事会では、政策金利の据え置きを決定した。主要政策金利は4.25%、預金金利は3.75%と市場予想通りの結果となった(図表1)。声明では、今後の利下げの判断はあくまでもデータ次第であることが改めて強調された。

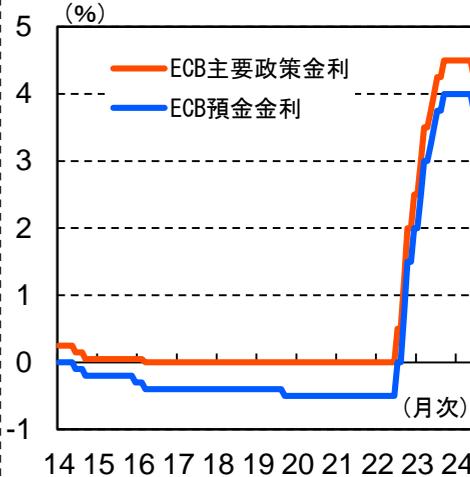
➢ 市場では、前回会合の「タカ派的利下げ」や利下げはデータ次第とし追加利下げに対し慎重な姿勢を崩さない高官らの発言などを受け、今会合での政策金利据え置きはほぼ確実視されていた。そのため、ECBの発表を受けた為替の反応は限定的だった。

➢ 前回の6月会合以降、6月消費者物価やIndeed賃金トラッカーが公表された。消費者物価は前年比2%台半ばで推移しているものの、依然としてサービス物価の寄与が大きい状態が継続している(図表2)。また、賃金の先行指標として知られるIndeed賃金トラッカーは、ここ数か月の減速傾向から一転、イタリアやスペインの上昇が寄与して前年比4.2%と再度伸びが加速した(図表3、4)。

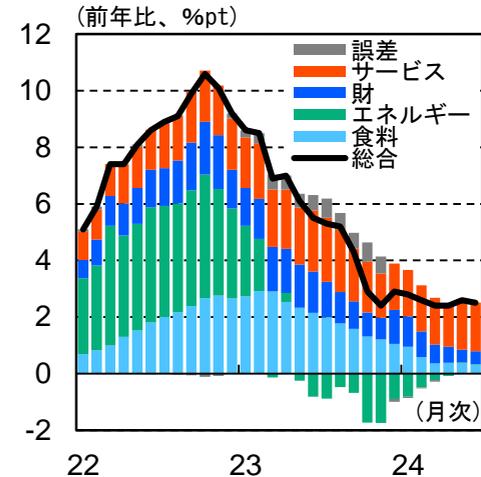
➢ ユーロ圏各国の失業率は依然として歴史的低水準で推移しており、賃金トラッカーの動きも勘案すると、労働市場の逼迫がさらに長期化するおそれがある。今回の賃金トラッカーの上昇が一時的な振れによるものであるのか、それともドイツやフランスにも波及して今後も高い伸びが継続し妥結賃金の高止まりに繋がっていくのか、ECBは見極めなければならない。

➢ こういったことから、3か月分の消費者物価に加えて四半期ごとに公表される妥結賃金のデータも確認できるタイミング、すなわち9月と12月に利下げの可否を判断していくと考える。

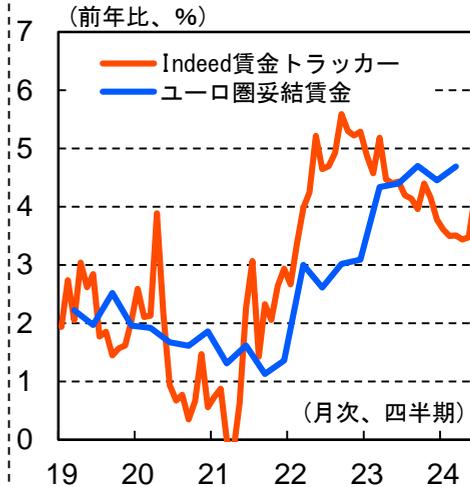
【図表1: ECB政策金利・預金金利】



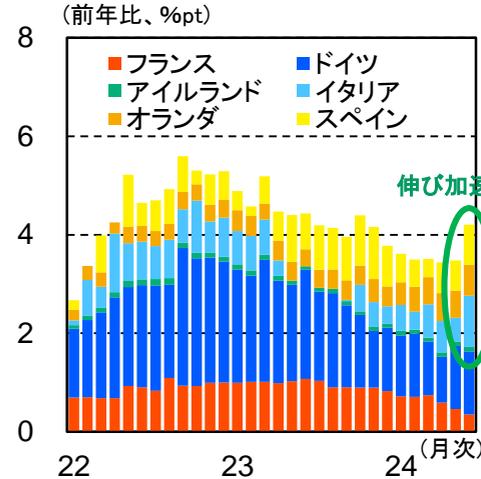
【図表2: ユーロ圏消費者物価指数】



【図表3: ユーロ圏賃金指標】



【図表4: 賃金トラッカー一別寄与度】



注: 最新の実績は月次が24年6月、四半期が24:1。  
出所: Indeed、Bloomberg、ECB Data Portal、eurostat

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。